

■過去の展示歴－2014年

05/12～07/21 「日本大学・考古学研究のあゆみ」

09/20～10/18 「古典籍から見る日本の書」

11/01～12/13 「写真と地図にみる江戸後期の風景」

平成 26 年度日本大学文理学部資料館 展示会

「日本大学・考古学研究のあゆみ」

会 期:平成 26 年 5 月 12 日(月)～7 月 21 日(祝月)

開館時間:平日 10 時～17 時(土曜 13 時まで)

休 館 日:日 曜

※但し、5/17(土)・18(日)、7/19(土)・20(日)は平日の時間で特別開館いたします。

展示概要:

日本大学文理学部には多くの貴重な考古資料が収蔵されています。

これらの資料の中には、「日本大学考古学会」による発掘調査で出土したものも多く含まれています。

日本大学における考古学研究のあゆみを振り返ると、大きく3つの段階が存在しますが、

本展では、そのうち昭和4年から昭和 22 年頃までの第1期の活動をご紹介します。

昭和4年、日本大学で人類学・考古学の講義が始まりました。昭和 15 年には、本学(日本大学史学会)

で初めて発掘調査が行われた後、「日本大学考古学研究室」「日本大学考古学会」が組織されました。

この活動は、昭和 22 年まで続きます。当時の本学における考古学研究の活動には、松村瞭先生、八幡一郎先生、門上秀観先生の3人の研究者が大きく貢献されました。

本展では、当時行われた発掘調査等で出土した土器や石器、及び考古学研究に関する記録資料などを展示し、日本大学における考古学研究のあゆみをご紹介します。

主な展示資料:

- ・本町遺跡(千葉県船橋市) 出土土器
- ・御明神遺跡(岩手県雫石町) 出土土器・石器
- ・平山古墳(東京都日野市) 出土鉄刀

【ギャラリートーク】

展示室にて、本展企画者の浜田晋介教授(史学科)による展示解説を行います。

参加費・事前申し込みは不要です。開始時刻に展示室までお越し下さい。

日 時 : ~~6月26日(木) 12:15～13:00~~ ※終了しました

~~7月 5日(土) 12:15～13:00~~ ※終了しました

~~7月20日(日) 13:15～13:45~~ ※終了しました

※7/20 は文理学部オープンキャンパスのため特別開館しています。

平成 26 年度 日本大学文理学部資料館 展示会

「古典籍から見る日本の書」

会 期:平成 26 年 9 月 20 日(土)～10 月 18 日(土)

開館時間:平日 10 時～17 時(土曜は 13 時まで)

休 館 日:日曜、10 月 4 日(土)

※ただし、9/21(日)、10/11(土)は平日の時間で特別開館

展示会概要

日本大学文理学部資料館展示会「古典籍から見る日本の書」では、日本大学所蔵の貴重資料のうち、「日本の書」に結びつく古典籍を選び、展示紹介します。

写経などの文字資料をはじめ、弘法大師空海や三跡(小野道風・藤原佐理・藤原行成)など、能書家について記されている文学作品、書跡や文物を収録した図絵(図録)など、「日本の書」の一端を窺うことのできる資料を選びました。とりわけ、日本大学総合学術情報センターに所蔵される古典籍資料の中からは、三条西実隆ほか筆『源氏物語』などの真跡資料を、また日本大学文理学部所蔵の貴重資料の中からは、『妙法蓮華経』『葛城』などの書跡資料のほか、『枕草子』『徒然草』などの文学作品、『集古十種』『今古手本抜粹』などの図絵類を展示します。

これらの古典籍をとおして、日本書道史をたどり、書の魅力・書物文化の魅力を感じていただく機会となれば幸いです。

主催:日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力:日本大学総合学術情報センター・日本大学国文学会・日本大学文理学部図書館

講演会のおしらせ

日時:平成26年10月11日(土)13時～14時30分(予定)

場所:文理学部3号館2階(3205 教室)

講師:名児耶 明先生(公益財団法人五島美術館常務理事・副館長)

題目:「写経と平安時代の書」

※参加費・事前申し込みは不要です。お気軽にご参加下さい。

▲[ページトップへ](#)

「写真と地図にみる江戸後期の風景」

会 期:平成 26 年 11 月 1 日(土)～12 月 13 日(土)

開館時間:平日 10 時～17 時(土曜は 13 時まで)

休 館 日:日曜

※ただし、11/1(土)～11/3(月)は平日の時間で特別開館

展示会概要

風景は人びとの生活・文化と密接に結びついており、その風景を写真は一瞬にして記録することができます。明治維新以降、日本が近代国家へと発展するなかで、近世の街並みは失われ、人々の生活・文化も変わることとなります。近年その価値は見直されてきていますが、今では大部分が見ることの叶わぬものとなっています。写真技術が日本に伝わっておよそ一世紀半、風景を記録し蓄積されてきた写真は、今や歴史と文化などを考えるためのかけがえのない資料といえます。

地理学では、学術的研究活動や学校教育の場において、写真と地図は文献資料等とともに、過去の景観・環境などを復元、把握するための基本的なツールとして活用されています。そこで本展では、今や見ることの叶わなくなった、近世日本の風景を、幕末に撮られたボードインコレクション(F.ベアト撮影ほか、長崎大学附属図書館所蔵)の写真画像を中心に、わが国で最初の統一規格による実測日本全図である伊能図等を加え展示・紹介します。風景が時間の流れのなかにあること、広がりをもつこと、そしてさまざまな側面をもつことに留意しながら、江戸後期の風景を読み解いていきます。

主催:日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力:長崎大学附属図書館・日本大学芸術学部写真学科・

日本大学芸術学部芸術資料館・日本大学広報部大学史編纂課